ISSN 1348-5628

2026 JANUARY No.137

かんぎきょう

Japan Environmental Technology Association

CONTENTS

■年頭のご挨拶
技術者不足の克服に向けた連携強化　（公社）日本環境技術協会　会長・代表理事　高橋　俊夫 …… 2

■年頭所感
人のいのちと環境を守る中核組織として　環境省　水・大気環境局長　大森　恵子 …… 3

■REPORT 協会活動レポート
令和7年度　排水管理における計測器の基礎知識と維持管理技術講習会 実施報告
（公社）日本環境技術協会　水質部会長　菅原　光明 …… 4
令和7年度　水質計測機器維持管理講習会 実施報告
（公社）日本環境技術協会　常務委員　山内　進 …… 5
令和7年度　環境大気常時監視技術講習会 実施報告
（公社）日本環境技術協会　大気部会長　水野　裕介 …… 6
令和7年度　環境大気常時監視技術者試験 実施報告
環境大気常時監視技術者試験委員会 …… 7
第38回技術交流会 実施報告
（公社）日本環境技術協会　常務委員　山内　進 …… 8
京都市南部クリーンセンター見学報告
（公社）日本環境技術協会　理事　石塚　敏久 …… 9
我が国の環境業務従事者青年代表の中国派遣報告
（公社）日本環境技術協会　海外部会委員　室賀　樹興 …… 10
防災地下神殿見学報告
（公社）日本環境技術協会　広報部会　副部会長　小林　由貴 …… 12

■COLUMN コラム「環話休題」No.44
節目の年に想うこと　（株）日吉　相談役　村田　弘司 …… 14

■事務局だより …… 16

JETA 公益社団法人 日本環境技術協会
https://www.jeta.or.jp/

環話休題
Column NO. 44

節目の年に想うこと

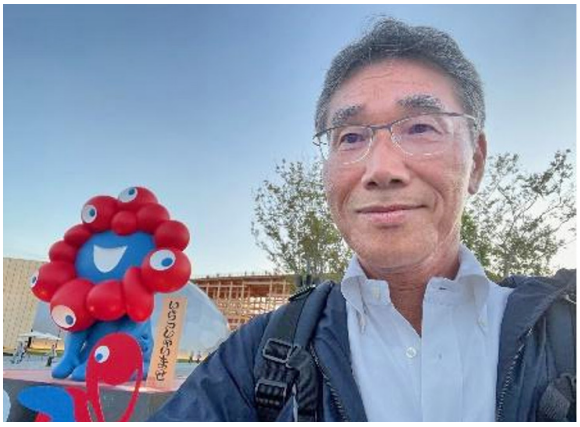
村田 弘司　(株)日吉　相談役

2025年は、私にとっても節目の年となりました。

まず、歳は数えで70歳となりました。株式会社日吉も創業70周年、我らの阪神タイガースは創設90周年（7回目の優勝を飾る）。そして55年ぶりに万国博覧会が開催され、さらに地元、滋賀県では44年ぶりに国スポ・障スポが開催されました。加えて、40年前に滋賀県で第1回世界湖沼会議が開催されたことにちなみ、2024年に国連で「世界湖沼の日」が制定されました。その制定後初となる8月27日を迎えたこともまた、ひとつの節目であります。このような節目のときに、よく思い起こすのは「時代の潮流」というものです。

とくに大阪・関西万博について振り返ると、1970年の大阪万博は私の中学生時代に開催されました。当時は2回ほど会場を訪れたことを鮮明に覚えています。テーマは「人類の進歩と調和」。すべてがモダンで未来感にあふれ、各パビリオンを友人と夢中で巡りながら、心躍る体験をしました。今のような公式なスタンプラリーがあったかどうかは定かではありませんが、スタンプの数を競い合った記憶が残っています。地方で育った私にとって、生で外国人を見る機会はほとんどありませんでしたので、様々な人種や文化背景を持つ方々と接したことは、新鮮で強烈な体験でした。当時、英語を習い始めたばかりだったこともあり、今思えば恥ずかしいことですが、外国人にサインを求め合うという競争を友達と繰り広げたこともありました。まさにテーマである「人類の調和」や「未来」を肌で感じられた瞬間だったと思います。ネットで調べてみると、当時の入場料は800円、街中のアイスクリームは30円ほどだったとか。2025年の入場料が7,500円というのは、アイスと比べると随分高く感じますね。

今回の万博にも、私は仕事や家族で3回訪れることができました。テーマは「いのち輝く未来社会のデザイン」。正直なところ、印象として強く残ったのは「とても暑かった」「人が多かった」「長い行列に並んだ」といった身体的な負担です。しかし同時に、未来や生命の可能性を感じる場面も数多くありました。たとえば、デジタル技術により未来環境を描いた映像や、iPS細胞を用いた鼓動する心筋シートを実際に見ることができたのは、大きな驚きでした。とはいえ、私はもう中学生ではありませんので、1970年万博のときのように強烈な衝撃を受けることはありませんでした。一緒に参加した孫や、会場を訪れていた若者たちが何を感じ取ったのかは分かりませんが、願わくは彼らが「世界人類の調和」や「持続可能な未来を築くことの大切さ」を心に刻んでくれていればと思います。



いまは、日本におけるパスポート保有率は約17%まで低下しているといわれています。その一方で、私自身は万博や世界湖沼会議などの経験を通じて海外への関心を強く持ち、これまでに18カ国を訪問しました。また、会社にも53カ国からの来訪を受ける機会に恵まれました。グローバル化という時代の潮流は、これからも続いていくと思います。次世代の人々がその流れを受け継ぎ、さらに発展させていけるよう願っています。

※広報部会では、「環話休題」へのご投稿をお待ちしています。